

令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出

■10月2日(木)提出

■3月13日(金)提出

学校番号	30	須崎総合	高等学校	課程	全
------	----	------	------	----	---

高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	地域の進学や部活動の拠点として、中高連携や学科間の横断的な取組により教育内容を充実させ、地域をけん引するリーダーとなる人材を育成する。
	【普通科】高知地域の拠点校として、地域と連携した探究型学習を通じて広い視野を持って自ら考え行動し、地域社会の核となる人材を育成する。 【工業科】ものづくり教育や地域と連携した取組を通して、工業の専門的な知識・技術を身に付け、地域に貢献できる技術者を育成する。		
スクール・ポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○将来、地域社会の発展に貢献しようと、多様な活動に積極的に取り組む生徒を求めています。 ○部活動や生徒会活動等に対して、意欲的・積極的に取り組む生徒を求めています。 ○普通科:学習活動に主体的に取り組む、幅広い知識を身に付けた生徒を求めています。 ○工業科:ものづくりに興味があり、社会に貢献できる技術者を狙いたい生徒を求めています。	【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○基礎学力の定着や、希望進路達成に必要な学力を身に付けさせるために、授業の質の向上に取り組めます。 ○希望の進路に進むことができる力を育成するために、キャリア教育に取り組めます。 ○資格の取得や技能の向上を図るために、専門力の向上に取り組めます。 ○コミュニケーション力を身に付けるために、各教育活動において振り返り場面を設定し、生徒が自己の考えを表現する活動の推進に取り組めます。 ○自己指導能力(何をすべきか自ら考え行動できる力)を育成するために、当たり前のことが当たり前になる力の育成に取り組めます。 ○課題解決力を育成し未来の地域人材を育成するために、自治体など他の外部機関や人材と連携した取組を行います。	
	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○授業を大切に、意欲を持って学習することができる生徒を育成します。 ○目標や志の実現に向けた進路選択を行うことができる生徒を育成します。 ○自己指導能力を身に付け努力することができる生徒を育成します。 ○自己の成長や地域への貢献に力を発揮できる生徒を育成します。		

学校関係者評価	
【学力の向上】 評価 【 B 】	・学びに対する意欲を高めることは簡単ではないと思うが、粘り強く取り組んで欲しい。 ・学年全体で3年生の進路を考えていく取組に期待する。 ・ないゴールには辿り着けないので、そこへ辿り着くために必要なことを逆算し、具体的に提示することができたらよいと思う。(進路指導)中間層の興味関心を引き出すためにできることを地域ぐるみで考えていけたら。 ・目標未達の部分はあがるが、取組内容は評価できる。
【社会性の育成】 評価 【 A 】	・地域や須崎市と連携した取組を継続的に進めており、社会性の育成に繋がっていると思う。 ・DX/ハイスクール活用例 デジタルシチズンシップ教育須崎市の行ったすさきCUPでも課題としてあがっていたが、小学生から中学生、中学生から高校生への一貫した協力体制のようなものが町ぐるみであったらよいと思われる。 ・地域活動は評価できる。今後の継続に期待。
【チーム学校】 評価 【 B 】	・長時間勤務の解消に向けてだけでなく、学力向上や社会性の育成の取組の質的向上に繋げる意味でも働き方改革に引き続き進んで欲しいと思う。 ・ICTの活用だけでは難しい局面はあるが、スリム化や働き方改革は進めて行って欲しいと思う。

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分

重点項目	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分			
					中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
学力的向上	★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とのつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力)	1)C層以上の生徒の増加(普通科)70%以上 〔普通科〕R6 1年1回目:44.1% R7 1年1回目:50.0% D3層の生徒の減少(工業科)25%以下 〔工業科〕R6 1年1回目:47.7% R7 1年1回目:57.8% 2)授業外学習時間の増加 ・ほとんど学習しない生徒数(2年生):25%未満 R6:2年1回目34.5%→第2回24.0% 3)将来のための勉強をしている生徒の増加 ・国公立大学志願者数・合格者数を卒業生数の10%以上。R6:4名(3.9%) ・公務員を含む就職率100%	・朝の学習、長期休業中・授業の中でワンウィークトライアルの活用、クロムブックの積極的な活用 ・授業での「めあて、思考・判断・表現の育成、振り返り」の実践を意識し、生徒のアンケート結果で確認 ・「すらら」等のICTツール活用 ・学習環境の整備(自習室等) ・進学補習(大学進学講座等)の充実(選択生への指導等)	B 1)C層以上〔普通科〕R7 2年1回目:46.2% D3層〔工業科〕R7 2年1回目:28.8% 1)基礎力診断テスト(11月)に向けて、朝学習等で「すらら」を活用 2)ほとんど学習しない生徒数:1年28.4%、2年32.6% ・朝学習での英数国の小テストの実施 3)「学習のねらい」肯定的回答:1年93.3%、2年94.7%、3年90.2%(全学年で県平均をオーバー) 3)「知識をもとに自ら考え、…」肯定的回答:1年93.3%、2年94.7%、3年90.2%(全学年で県平均をオーバー)	B ・朝の学習、長期休業中・授業の中でワンウィークトライアルの活用、クロムブックの積極的な活用 ・授業での「めあて、思考・判断・表現の育成、振り返り」の実践・確認 ・「すらら」等のICTの活用 ・その他学習環境の整備(自習室等)	B 1)C層以上〔普通科〕R7 1年2回目:67.0% R7 2年2回目:50.0% 目標未達 D3層〔工業科〕R7 1年2回目:41.9% R7 2年2回目:28.9% 目標未達 2)ほとんど学習しない生徒数:1年24.2%、2年26.0% 2年生は目標未達。 3)将来のための勉強をしている生徒3年88.5%、2年90.8%、1年85.9% 国公立大合格者数7名 公務員を含む就職率100%	・成績上位層と下位層を同時に伸ばすには、将来の目標をある程度高く持たせ、それに向けて努力する必然性を知らせることも重要。1年次から可能性を広げる進路指導をしていく必要がある。 ・適切な受験校・就職先を志望できるようにするために、3年生全員の進路を学年全体で考えていく進路検討会を来年度は実施予定。	
	社会性の育成	★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	○ボランティア活動の推奨による自己効力感や自己有用感の育成 1)地域貢献やボランティア活動に参加:50%以上 学校評価アンケート肯定的回答 R6 1年:43.9%、2年:48.8% 2)「海のまちプロジェクト」須崎市との連携、地域協働活動推進委員との展開 R6:地元神社の修復 須総マルシェ 賀茂神社イベントものづくり教室など	【普通科】総合的な探究の時間において、須崎市の「海のまちプロジェクト」に参加している。地域貢献や地域理解を目指す 【工業科】課題研究等において、須崎市との連携を図る	B 1)「地域貢献活動やボランティア活動…」の肯定的回答は、1年23.2%、2年48.4%、3年63.9%(3年は半数を超えている) 2)工業科:防災看板製作、ものづくり教室実施(11月) 2)普通科:「須総マルシェ」「海のまち音楽祭」の開催(11月)	A ・普通科 総合的な探究の時間において、須崎市の「海のまちプロジェクト」に参加し、地域貢献や地域理解を目指す。 ・工業科 課題研究等において、須崎市との連携を図る。	A 1)2)ボランティア活動…1年:35.1%、2年:55.0%が肯定的回答。2年は目標達成。普通科:「須総マルシェ」の開催、商業コースの賀茂神社イベント開催。工業科:ものづくり教室・出前授業等実施。海のまち音楽祭の開催。 1)人権教育研究指定校事業では、中学校や地域(須崎市・自衛隊等)と連携し、防災と人権について学び、豊かな人間性や他者への思いやりを学んだ。	・地域連携については、概ね良い取組が継続。アンケート前に、ボランティア活動を含む探究や実習も対象であることを周知する必要、進路に繋げる取組(自分で取組の表現・アピールができる)にする必要がある。 ・人権と防災に係る事業は終了するが、学びは継続する。
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	1)「海のまちプロジェクト」須崎市との連携により、普通科の総合的な探究の時間や工業科の課題研究等において地域協働学習を推進 ・「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答60%を目標(R6生徒:65.6%) ・学校評価アンケート「地域貢献やボランティア活動等、積極的に参加していますか」の保護者等の肯定的回答90%を目標(R6:86.5%) 2)教員研修の活性化 研修参加 工業科1名1回以上	A 1)普通科:「須総マルシェ」「海のまち音楽祭」の開催(11月) 工業科:防災看板を須崎中と合同製作 1)総合的な探究の時間での、高知大生による指導・助言・2)人権教育研究指定校事業として、須崎中と合同で、授業づくりに関する教員研修を実施(8/5) 1)2)高知の魅力発信グローバル人材育成事業として行われる、久礼小・久礼中との合同授業研究会(11/7)に向けた各種準備 2)工業教員研修5割以上参加	A ・自治体や地域と連携した防災活動の展開をとおり、頼られる学校・生徒の育成＝ボランティアポイントの紹介と活動へのいざない ・須崎市との「海のまちプロジェクト」地域交流活動、地域協働活動推進委員との展開 ・地域企業や大学との連携の充実を図り、一層の指導力向上を図る。	A 1)自治体や地域と連携した防災活動の展開をとおり、頼られる学校・生徒の育成＝ボランティアポイントの紹介と活動へのいざない ・須崎市との「海のまちプロジェクト」地域交流活動、地域協働活動推進委員との展開 ・地域企業や大学との連携の充実を図り、一層の指導力向上を図る。	A 1)普通科・工業科とも、多くの取組で地域連携に努めた。中学生との連携も、互いに行き来して実施できた。「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」R7生徒:69.8%で目標達成。学校評価アンケート「地域貢献やボランティア活動等、積極的に参加していますか」R7:90.2%で目標達成。 2)工業科教員研修についてはDXを中心に概ね達成	・概ね良い結果となった。ブラッシュアップしながら、それぞれの事業を継続する。 ・特に須崎市との連携強化を図り、一層充実したものとす。
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	1)「総合的な探究の時間」での課題発見や解決に結びつけている成果物を学校として共有する。学習成果発表会において発表・評価を受ける。 2)課題研究やものづくりについて、計画的に取り組むことで学習成果発表会での発表・評価を受ける。	・計画の中で中間発表や学習成果発表会において、成果の確認・報告ができる。 ・外部の評価を受けることで、修正・変更を確認する。 ・DX/ハイスクール事業を推進し、専攻間の連携を強める。	B 1)2)授業デザインプロジェクトによる、教員対象の他教科理解に関する研修を実施(12月)新規DX/ハイスクールを推進する中で、専攻長会を定期的に開催し、専攻間の連携の強化を模索中	B ・計画の中で中間発表や学習成果発表会において、成果の確認・報告ができる。 ・外部の評価を受けることで、修正・変更を確認する。	B 1)2)2月13日市民文化会館で学習成果発表会での発表・評価を実施。近隣中学校や地域、企業等に多数参加頂いた。アンケートでは概ね好評な評価を得た。 新規DX/ハイスクールの取組については、工業科各専攻の枠を超えた研修等の取組が始まり、来年度への足がかりはできた。	・取組で得た課題解決能力や言語能力(表現力)等を活かした進路実現に繋げる生徒の増加 ・各専攻横断的な学びの本格実施

チーム学校	学校の振興	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分		
						中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化・特色化 ○教育内容の充実(普通科・工業科)を図るとともに、連携を強化し相互に学び合う姿勢を育成	1)魅力化・特色化の具体的目標(指標) ・学校生活は充実している(目標90%以上 R6:93.5%) ・部活動の活性化(加入率85%以上 R6:71.9%) 2)学校運営協議会等の実施回数 R6年間2回 R7年間2回	・進学・就職(公務員)補習の実施 ・資格取得に向けた補習の実施 ・学校行事等の地域への発信 ・学校運営協議会の実施 ・部活動の継続・維持	B 1)進学・就職補習や資格取得補習を計画的に実施 1)「学校生活は、充実」肯定的回答:1年96.3%、2年91.6%、3年94.3%(1・3年は県平均をオーバー、2年は同等) 1)部活動の加入率:71.6% 1)全国大会へソフトボール部が出場し全国5位 1)学校行事 体育祭(10/2)通常開催 2)第1回学校運営協議会は、7月18日開催	B ・進学・就職補習の実施 ・資格取得に向けた補習の実施 ・学校行事等の地域への発信 ・学校運営協議会の実施 ・部活動の継続・維持	B 1)就職希望者は100%内定。国公立大学合格者7名(3月9日現在)。学校生活は充実している(R7:93.2%)。全国大会出場(ソフトボール部・カヌー部・英語部・写真部)、ものづくりコンテスト四国大会・全国大会出場、県総文祭入賞(囲碁将棋部、写真部、美術部、書道部) 2)第2回学校運営協議会の実施(2月25日)	・進路保障の向上 ・部活動の活性化(精選・PR) ・入学者の確保 ・中学校との連携 ・再編準備
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	1)倫理観堅持のための具体的目標(指標) 不祥事0の継続 2)校内研修の実施回数 R6:6回→ R7:5回以上 3)不祥事防止委員会の実施回数 R6:7回→ R7:12回(毎月)	・組織職員会での研修会の実施 ・相談窓口等の周知・徹底 ・校内研修の予定開催の徹底 ・教員間の関係づくりの検討	B 1)6月を不祥事防止月間とし、当初面談時に「不祥事防止に係るヒヤリ・ハット」についての意見を聴取 1)教育実習オリエンテーションでの周知 2)3)不祥事防止研修を毎月実施し、今後も継続予定(9月末時点で校内研修6回、不祥事防止対策委員会7回開催)。	A ・相談窓口等の周知・徹底 ・校内研修の予定開催の徹底 ・教員間の関係づくりの検討	A 1)2)確認や相談の定着。不祥事防止研修として「信頼される学校づくりのために」の定期購読及び確認。研修は年間8回実施で目標達成。最終面談のなかで、個々の不祥事への意識の確認(第2回不祥事防止月間) 3)不祥事防止委員会の定期開催(R7は3月9日時点で13回)	・研修や声掛けの継続・充実。 ・個々の変化を見逃さない環境づくり。 ・報告・連絡・相談の徹底。
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○意識改革 ○ICTの活用 ○休暇取得奨励 ○部活動等の分担の奨励	1)分掌業務等の複数での取組はでき始めているが、特定の業務には分担に偏りが見られる。 ・45時間超勤務者を月平均10人以内 ・ベテラン教員から若年教員への業務指導及び協働 ・組織的な協力体制の構築、ICTの活用	・超過勤務の意識化とICTの活用によるデジタル教材の共有化や採点業務の見直し ・各学年やホーム担任・副担任での役割分担 ・各分掌内での役割分担、チームでの取組 ・部活動の役割分担 ・職員会議の月1回開催 ・学校閉庁日の設定 ・職員朝礼の見直し(必要に応じて実施)	C 1)45時間超勤務者は、(4月)11人、(5月)10人、(6月)10人、(7月)7人、(8月)11人、(9月)8人であった。理由は、ホーム担任業務、分掌業務、教科指導、部活動指導のほか、体育祭準備や進路指導等によるものであった。医師面談は実施には至っていない。 1)夏季休業中に3日間の閉庁日を設定	B ・超過勤務の意識化とICTの活用によるデジタル教材の共有化や採点業務の見直し ・各学年やホーム担任・副担任での役割分担 ・各分掌内での役割分担、チームでの取組 ・部活動の役割分担 ・職員会議の月1回開催	B 1)45時間超勤務者は、(10月)11人、(11月)9人、(12月)5人、(1月)8人、(2月)4人であった。理由は、ホーム担任業務、分掌業務、教科指導、部活動指導のほか、体育祭準備や進路指導等によるものであった。医師面談は実施には至っていない。大きい行事や年度の始めと終わりなどの繁忙期には増える傾向は変わらない。	・外部人材の活用 ・デジタル教材の共有の促進。 ・行事のスリム化を継続する。(スラップ&ビルドの促進) ・長時間勤務者への声掛け ・時間管理だけではなく、教職員の心身の状態への配慮。